

ゆん・なんニュースレター

第48号 令和3年 11月10日

朝、猫がベランダへ行く階段の上にチョコンと座っていました。朝陽が当たって暖かい！さすが猫、暖かい陽だまりの場所をいち早くキャッチしていました。今月に入ってコロナ関係の規制が順次解消されてきました。嬉しいことですが油断したらダメとこの国の政府も言っています。当ホームに入所している子供たちもワクチン接種の予約をしたり、2回目の接種を受ける予定とか自分なりに対応しています。ホームのスタッフも発熱した人が結構いました。「注射いやや」と言っていたAちゃんですが、他の子が次々接種の予約をするのを見聞きしていて、「〇〇ちゃんと一緒ワクチンしょうか？」という流れで予約をとりました。接種時までには体調の崩れがないようにと願います。海外では接種率80%でも（シンガポール）コロナ再拡大というニュースを聞きました。油断せずに体調管理していきましょうね。

今月から「人生100年時代をどう生きるか？」前回まではサステイナブル（持続可能な）環境問題に取り組む若い人の発言でしたが、今回からは長くなった人生についてリンダ・グラットンさんの興味深い話です（インタビューをかいつまんでまとめています）

「マルチステージの人生」伝統的な人生を考えると、3つのステージがあります。フルタイムの教育期間、続いてフルタイムの仕事期間、それに続くフルタイムの引退期間です。今まではそれでなんとなくよかったですよね。でも実際、私たちの多くはより長生きすることになります。特に日本人の皆さんはそうですね。それと同時に、大きな技術の変化が起きています。そうすると、今までの3ステージの生き方は不可能になります。私たちが代わりに提案するのは「マルチステージの人生」と私たちが呼ぶものです。これまでよりステージが増え、より多くのことをすることになります。1つのステージから別のステージへ移るのは、自分だけです。なぜなら、3ステージの人生の面白いところは、年齢に基づいているとういことですね。でもマルチステージではそれがとても個性的な人生を送ることができます。そのほうがかなりバラエティに富んだ人生を送れるし楽しくなる可能性があると思います。

次号へ

ゆんたくホームのゆんたくさびら

(おしゃべりしましょう)

1週間の終わりの土曜日のなると「早いなあ〜明日は日曜日や〜」と感慨深げに言うので苦笑しています。日時が早く経つと感じるのは「新鮮な驚きやハラハラドキドキする感動が少ないから」とはあのチョコちゃんが教えてくれましたが、10代の子と〇代の私たちの「早いなあ〜」の感覚が一緒なのかと少し考えてしまいました。コロナの緊急事態宣言が解除されて、秋の観光客が少しづつ戻ってきているのか、嵐山に近い幹線道路の9号線は車の数が増えたと感じます。観光バスもチラホラ見かけるようになりました。嵐山の紅葉はまだこれからですが、近頃のように寒暖の差が大きいと色がきれいですよね。昨年行った善峰寺から望める山々の眺望は錦絵のように見事、赤や黄色、美しかったです(∩∩)／

なんくるはなんくるないさ〜

(なんとかなるよ！)

なんくるは新しくAちゃんが入所し、人数が増えおおいに大賑わい。それぞれが目標をもってバイトや勉強に励んでいるのでとても良い雰囲気。ホームになりつつあります♪ひとつ心配なことは、みんな一生懸命頑張るあまりに帰りが遅くなることもあるので風邪をひかないかということ…朝方は夜は特に寒くなってきたので、防寒対策をして体調管理をしっかりと行ってほしいと思う今日この頃です。もう11月…冬のイベントが迫ってきているのでコロナも落ち着いてきてくれると良いのですが…各自できちんと対策をとって全員元気に乗り切りたいと思います！



らいげつ あんない
来月のキッチンゆんたくのご案内

2021年

12月16日 (第3木曜日) かいさい 開催

よてい
予定メニュー

- ・クリームシチュー ♪ ・ ごはん
- ・ サラダ



11月のキッチンゆんたく

メニュー

♪ ・ ぎょうざ

・ 混ぜご飯 ・ みそ汁

夕方5:30~なくなり次第 しだいしゅうりょう 終了

☆子ども…100円 えん / 大人…300円

会食で〜す！！
先着順 15~20名程度を
予定しています。

Thanks

きんりん かいしや きんいっふう とりこ ぎょうざ
近隣の会社K様より金一封、きょうと 鷹やさんから餃子 (今回のメニュー)、きょうとフードセンター
かし
様よりデニッシュパンをフードバンク きょうと 京都様より玉ねぎ・ジャガイモ・カレールー・お菓子
みなさま
いただきました。皆様、いつもありがとうございます。



Thanks ♪



かみしばい えほんしょうかい
紙芝居・絵本紹介

『こすずめのぼうけん』

ルース・エイズワース 作

いしいももこ
石井桃子 訳

ほりうちせいいち
堀内誠一 画

こんかい
今回はキッチンゆんたくのボランティアスタッフが、よ き なんと なつ
読み聞かせを何度もした懐かしの絵本です。

<あらすじ>

こすずめが す と た ひ むか かあ かた おし
巣から飛び立つ日を迎えました。お母さんは飛び方を教えます。「いしがきのうえまでいったら、きょうはおけいこは、おしまい」・・・「ぼくはひとりで、せかいじゅうをみてこられる」
でも、こすずめは とお い まいご すこ はね いた
遠くまで行って、迷子になってしまいました。少しずつ羽が痛くなってきました。
にれ き
楡の木のでっぺんにカラスがいます。「やすませていただいでいいでしょうか？」 「おまえ かあ、かあ、かあっていえるかね？」「いいえ、ぼく、ちゅんちゅんってしかいえないんです」「じゃ、なかへいれることはできないなあ」 (ここから繰り返しです) ひいらぎ やまぼと かし あな
柎の木に山鳩が・・・樗の木の穴にふくろう。
さいご
最後はかも。でも、仲間ではないと言われ、ことわ
断られてしまいました。・・・あたりは暗くなりはじめました。どうなることでしょう。そこへ、むこうからぴよんぴよんやってくる鳥 とり
がいます。それは、もちろんお母さんすずめ。「わたしのせなかにおのり。いえまでおぶって行ってあげるから」それから、かえ
巣に帰ったこすずめはお母さんの あたた つばさ ねむ
暖かい翼のしたで眠りました。



*紹介者がハラハラドキドキしながら見ている子ども達が、最後にホットした ひょうじょう いんしょうてき
表情になるのが印象的だったと話してくれました。安心感に包まれた終わりがいいですね (^_^) ♪